

研究主題 「自己を見つめ、豊かな心を育む道徳科の推進」  
～多面的・多角的に考える指導法の工夫～

研究構想図

西東京市立芝久保小学校教育目標

- ・ 粘り強く考える子
- ・ 仲良くする子
- ・ 元気に活動する子

育てたい力

- ・ 自分だけを大切にのではなく、相手の気持ちも考えた言動ができる力

児童の実態

- ・ 誰に対しても思いやりの心をもつこと、自分の良さを見つけ、互いの良さを認め合うことが難しい。

「自己を見つめ、豊かな心を育む道徳科の推進」  
～多面的・多角的に考える指導法の工夫～

研究の視点

① 板書の工夫

② 発問の工夫

③ 話し合いの工夫

④ 展開降壇での  
振り返りの工夫

目指す児童像

低学年	中学年	高学年
自他の大切さに気付く子	自他の大切さを深く考える子	自他を大切にする子

特別の教科 道徳の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

# 研究の視点

## ①板書の工夫

- 違いや多様さを対比的、構造的に示す板書
- 思考の流れや順序を示す順接的な板書
- 子供が自分たちの思いをつなぎながらつくっていく板書

教材提示で使った紙芝居をそのまま場面絵として活用することで、教材の内容理解を深める。



小鳥の心情の変化を考えやすくするために、小鳥の絵を右から左へ移動させながら発問につなげる。

本時の課題を提示して、ねらいとする道徳的価値に対する問題意識をもつ。

授業を通して考えたことを黒板の左側に書くことで、児童が本時での変容に気付くことができる。

## ②発問の工夫

- 自己の振り返りが深まるような、後段につながる前段の発問
- 考える必然性や切実感のある発問
- 物事を多面的・多角的に考える発問
- 自由な思考を促す発問

・中心発問は、ねらいに直結して一番時間をかけて深く考えるところに設定する。  
(多様な価値観が表出されるような場面に設定したり、発問したりすると、ねらいから逸れてしまう心配がある。)

「議論する道徳」を意識するためか、どちらが是か非かを話し合う授業になっていないか。



「迷っている（葛藤している）場面」には、様々な価値観が入り混じるので、多面的・多角的に考えることはできるが、あまり中心発問には向かない。

多面的・多角的に考えることを通して、ねらいとする価値が大切だと改めて考えたり、自分の生き方を見つめたりすることができるように設定すると効果的である。

### ③話し合いの工夫

○意見を出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じた話し合い



3人組で話し合いを行い、友達の意見を赤で書き足してさまざまな視点から考えられるようにした。

- 教師も児童と共に考える。
- 板書の工夫ができてると、話し合いの活性化につながる。



- 「待つ、聴く、受け止める」という教師の姿勢
- 1対1のやり取りだけではなく、時には、全体に問い返してからもう一度話し合わせるなど、道徳の価値を深める手だてを行う。

### ④展開後段での振り返りの工夫

○これまでの経験・感じ方・考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めることができる振り返り



導入で使用したアンケートの結果に立ち返って自己を振り返ることで、自己の変容に気付かせることにつなげる。

発達段階に応じてワークシートを工夫する。

- 紙の大きさ
- 「評価」を意識するためか、書く分量が多い授業になっていないか。



ワークシートの記入は、前段か後段のどちらかにする。年間を通してバランスよく作る。

展開後段で「決意や行為」を求めないようにしながら、道徳科の目標「生き方についての考えを深める」ようにする。

## [研究の成果と課題]

### [成果]

- 導入を工夫したことで、道徳的価値への問題意識をもたせることにつながった。
- 多面的・多角的の捉え方を考えるきっかけになった。
- 視覚的な板書で児童の内容理解につなげることができた。
- 問い返して深めていくことの有効さを学んだ。
- 適切な評価についての理解が深まった。
- 新学習指導要領についての理解が深まった。



協議会のようす

### [課題]

- 行為ではなく、価値観の分類で発問や板書を行う。
- 聞く文言によっても児童の反応は変わってしまうため、発問の言葉を吟味する。
- 挿絵だけではなく、発問も板書する。→後で見ても何を考えたのかを振り返ることができるようにする。
- めあては心情なのか、態度なのかを明確にして、ねらいに沿った発問を考える。
- どの児童も教材の内容を理解できるように、効果的な教材提示を行う。
- 教材提示でCDを使った効果音で児童が興奮してしまった。学級の実態によって指導法を選択する。

### [来年度に向けて]

- 全校体制での道徳教育の推進
  - 道徳全体計画を見直す。
  - 本校の道徳教育に沿った別葉を作成する。
  - 毎月の土曜授業に、全学級道徳授業を実施する。
  - 道徳科授業の積み重ねを視覚的に振り返ることができる教室掲示をする。
  - 道徳的価値について考えるきっかけとなる校内廊下掲示をする。
- 要となる道徳科の授業改善を継続して行う。
  - 全ての教科等の授業改善につなげる。
  - 適切な評価を見直すことにつなげる。